

1. 公共施設再配置 計画書P183(前期10年)の一覧の中で見直すもの

(1) 文化施設の機能統合と類似施設との複合・多機能化

①施設の基礎情報

施設名	施設類型	施設規模・建物						利用・運営状況(令和3年度)			備考	
		敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	建築年	経過年 (R4現在)	大規模改修 期(建築後30 年)	更新期(建 築後60年)	施設概要	利用者 (人)	歳出 (千円)		歳入 (千円)
葦山農村環境改善センター	集会施設 (センター的施設)	3135.52	1057.15	1982 (昭和57)	40	2012 (平成24)	2042 (令和24)	会議室、教室、和室、調理室、クラブ室(インターネット対応)倉庫 ※執務室【市民課葦山支所、葦山土地改良区】	13,336	6,128	1,906	
長岡中央公民館 (あやめ会館)	集会施設 (センター的施設)	2,255	2,308	1989 (平成元)	33	2019 (令和元)	2049 (令和31)	1階:調理実習室・研修室1 2階:会議室、実習室、研修室2 3階:多目的ホール ※執務室【教育部、産業部】	16,109	10,042	499	
長岡総合会館 (アクシスカつらぎ)	文化施設	6,211	8,920.47	1993 (平成5)	29	2023 (令和5)	2053 (令和35)	大ホール1007席、楽屋2、多目的ホール 400人収容、市民ギャラリー、会議室3※1棟、地上5階、地下1階	44,482	44,618	5,620	
葦山文化センター (葦山時代劇場)	文化施設	21,698.51	4,882	1996 (平成8)	26	2026 (令和8)	2056 (令和38)	大ホール・映像ホール・研修室・リハーサル室等を有する貸館施設並びに図書館を併合した施設	16,770	41,216	4,702	
大仁市民会館 【→H29から「市民交流センター(くぬぎ会館)」へ移転】	文化施設	6,742.53	2,119.04	1974 (昭和49)	48	2004 (平成16)	2034 (令和16)	大集会室、展示場、第1～4集会室、家庭教室、視聴覚室、工芸室	—	—	—	令和2年度静岡県へ売却済

②見直しの内容

見直し前(現行の計画を要約したもの)

前期 (2016(平成28)～ 2025(令和7)年度)	中期 (2026(令和8)～ 2035(令和17)年度)	後期 (2036(令和18)～ 2045(令和27)年度)
葦山農村環境改善センター		
長岡中央公民館 (あやめ会館)		
長岡総合会館 (アクシスカつらぎ)		
葦山文化センター (葦山時代劇場)		
大仁市民会館		

●再配置の手法、時期、位置の考え方

- 各施設(大仁市民会館を除く)の大規模改修期をタイミングとして機能統合する。
- 2019(平成31)年度から着手し、文化施設の大規模改修期にあたる2026(令和8)年度までに文化施設の位置に再配置を図る。
- 大仁市民会館は、2017(平成29)年4月から大仁くぬぎ会館(旧大仁高校)に移転し運用を開始しているが、10年間の借用期限があることや文化施設の運営面での効率化を図るため、文化施設の大規模改修期(前期～中期)に対応することを基本とする。

●再配置後の面積削減の考え方

再配置後の面積は、既存施設のホールや貸館機能といった共通機能の稼働率に基づいた空間シェア及び将来の利用者数を想定した施設規模を見込む。

- 再配置前 施設数=5 延床面積=19,287㎡
- 再配置後 施設数=1 延床面積=9,600㎡

《凡例》



:見直し前



:見直し後



:解体・売却等

見直し後

前期 (2016(平成28)～ 2025(令和7)年度)	中期 (2026(令和8)～ 2035(令和17)年度)	後期 (2036(令和18)～ 2045(令和27)年度)
		葦山農村環境改善センター
		長岡中央公民館 (あやめ会館)
		長岡総合会館 (アクシスカつらぎ)
		葦山文化センター (葦山時代劇場)
大仁市民会館		

●再配置の手法、時期、位置の考え方

- 葦山農村環境改善センターと長岡中央公民館(あやめ会館)の貸館機能は、葦山農村環境改善センターの更新時期(後期)に、文化施設の貸館機能も含め、適切な位置に機能統合を図る。
- 長岡総合会館(アクシスカつらぎ)と葦山文化センター(葦山時代劇場)は、計画期間外に更新時期を迎えるが、集会施設(センター的施設)である葦山農村環境改善センターが後期に更新時期を迎えることから、施設の老朽化の状況や貸館機能の利用状況などを踏まえ、適切な位置に機能統合を図る。
- 大仁市民会館の機能は、2017(平成29)年4月から大仁くぬぎ会館(旧大仁高校)に移転し運用を開始しているが、10年間の借用期限があることや文化施設の運営面での効率化を図るため、借用期限となっている2025(令和7)年度で県に返還することを検討する。

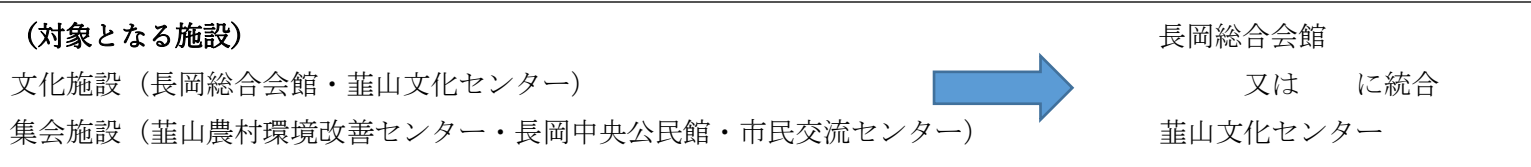
●再配置後の面積削減の考え方

- 変更なし。

③見直しの理由

●令和2年度に実施した「文化施設再配置基礎調査」の結果、「重複利用の状況から、1つの文化施設へ5施設の貸館機能を集約すると、充足できない利用が多数発生する。」ことから、当面は複数の施設を利活用することが必要である。

参考：令和2年度 文化施設再配置検討事業 基礎調査報告書（概要版）抜粋



（統合のパターン）

- パターンA 【主に長岡総合会館に集約する】
 - A-1 〈長岡総合会館に集約する〉 ≪重複コマ数 6,942 コマ≫
集会施設としての機能がなく「和室」「調理室」「パソコン室」「工作室」といった機能がなくなる。また、部屋数が少なく現状の需要をカバーできない。
 - A-2 〈長岡総合会館と葦山農村環境改善センターに集約する〉 ≪重複コマ数 4,009 コマ≫
文化施設と集会施設それぞれの機能があり、現状の使用目的はカバーできる。しかし、部屋数が少なく現状の需要をカバーできない。
- パターンB 【主に葦山文化センターに集約する】
大ホール・映像ホールともに長岡総合会館より収容人数が少なく、大規模なコンサートや集会に対応できない。
- パターンC 【長岡総合会館と葦山文化センターに集約する】 ≪重複コマ数 2,878 コマ≫
集会施設としての機能がなく「調理室」「パソコン室」といった機能がなくなる。部屋数は増えるが現状の需要全てをカバーすることはできない。

（検証結果）

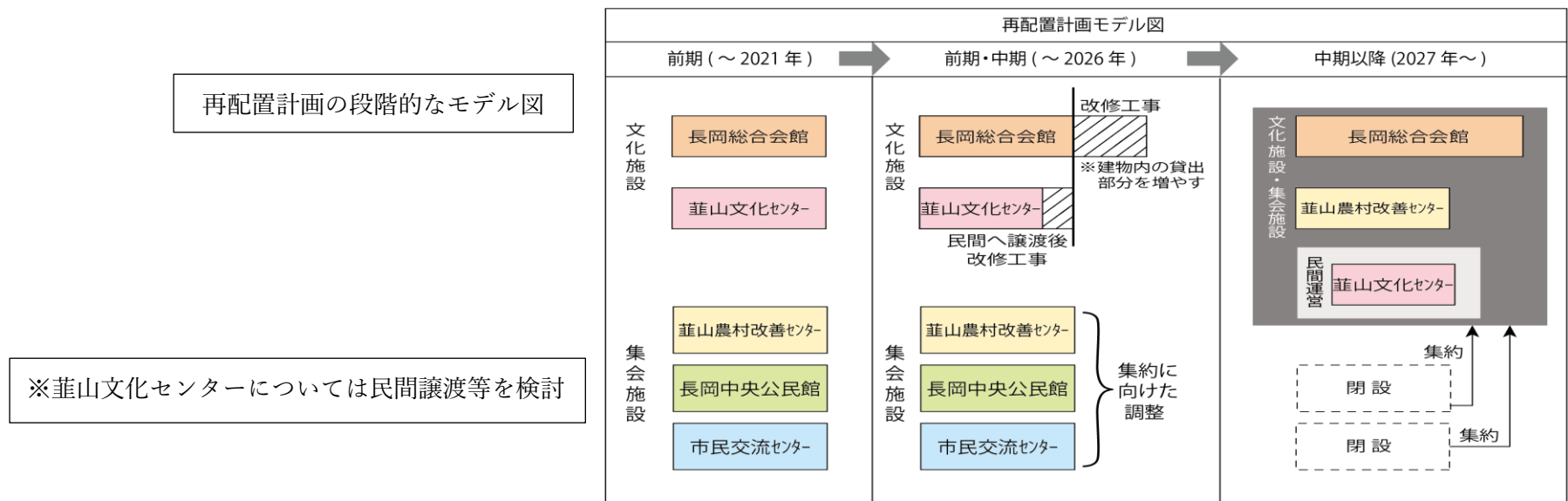
「伊豆の国市公共施設再配置計画」に示されている1つの文化施設への5施設の統合を実施すると、長岡総合会館・葦山文化センターのどちらに統合したとしても「集会施設」としての機能がなくなり、現状の使用目的を果たせない使用者が生じる。

また、貸館の部屋数と面積が少なく、長岡総合会館に集約した場合全体の37%の需要しかカバーできない。

（統合の「形」の提言）

長岡総合会館と葦山農村環境改善センターへの2施設に統合し、「文化施設」と「集会施設」それぞれの機能を維持する必要がある。しかし、2施設に統合した場合でも部屋数が不足するため、長岡総合会館の改修や使用方法の変更を行い、貸館機能の充実を図る必要がある。

また、葦山文化センターについては、民間への譲渡も視野に「市の管理によらない維持」を模索することや、市が管理する場合でも「減築」等により管理面積を減らすなど維持管理費の低減を図る必要がある。



④公共施設劣化状況調査の結果(令和3年度)

名称	構造部劣化度	部位・設備別劣化度				
		(1)屋根・屋上	(2)外壁	(3)内部	(4)電気設備	(5)機械設備
葦山農村改善センター	B	B	C	C	B	B
長岡中央公民館（あやめ会館）	B	B	B	C	B	B
長岡総合会館（アクシスカつらぎ）	B	B	B	B	B	B
葦山文化センター（葦山時代劇場）	B	B	C	B	B	B

●評価基準

- ◆構造部劣化度・部位設備劣化度
 - A = 概ね良好
 - B = 部分的に劣化(劣化の状態が全体の過半数を超えない)
 - C = 広範囲に劣化(劣化の状態が全体の過半に発生)
 - D = 早急に対応する必要がある(既に機能損失している)

●評価結果

◆構造部はB判定、部位・設備別劣化度は一部C判定であることから、躯体としては引続き使用できるが、部位・設備等は修繕等の対処が必要となっているものがある。